

はじめに

本年4月より、いよいよ新しい学習指導要領が本格実施されることになりました。子どもたちに、「生きる力」を育むことをめざした今回の教育課程の理念を実践していくために、ここに至るまで、各方面で真摯な取組が進められてきたことと存じます。

京都市におきましても、本市教育の重点課題に即した10項目についての研究を重ね、この一年間に新教育課程に対応した学習プログラムを開発し、実証で得た結論や知見など一応の成果をここにまとめました。

本研究紀要の第一巻では、小学校における教育課程を対象とした研究をまとめました。評価観の転換の中で求められている学習評価の在り方、変化してきたといわれる小学校1年生の姿を明らかにするための生活意識調査、ひらがな習得までの国語科入門期の指導の在り方、あらゆる教科領域で取り組むべき人権学習の在り方、コンピュータ活用能力を育成する学習の在り方、そして、求められているカリキュラムセンター機能の開発と六編の研究成果を掲載しております。

第二巻では、中学校における教育課程を対象とした研究をまとめています。指導と評価の一体化を図るための授業設計の在り方、中学校英語への意欲と関心を高めるための入門期における指導の在り方、子どもたちの心に響く道徳の在り方、そして、心の健康を育むための保健学習の在り方と四編の研究を掲載しております。

いずれの研究も、関係各課との密接な連携のもと、今日求められている緊急の教育課題に取り組んだもので、各学校での教育実践に生かしていただけるものと思っております。

「ものの豊かさ」から、「心の豊かさ」が求められている時、教育に寄せられる期待も大きなものとなっています。私たちは、「今を生き、次代を拓く力」を子どもたちに育てていくために、今を見据え、先を見通して今後とも研究を進めてまいりたいと考えております。

新たな時代の教育の創造に、日々精励されている先生方のお取組のご参考に供するところが少しでもあればと願いますとともに、忌憚のないご意見をお寄せいただきたく存じます。

最後になりましたが、各研究を進めるにあたり、ご協力いただきました研究協力員及び研究協力校の先生方、並びに関係者の方々に、心から御礼申し上げます。

平成14年3月

京都市立永松記念教育センター
所長 清水 武